

1. 授業の概要(ねらい)

本講義のテーマは、日本の電機産業です。

大学に入ったとき、電気製品を買った人は多いでしょう。とくに独り暮らしを始めた人はそうだと思います。その際、ネットで安い製品を探すと、アクアというブランドの製品が目につくませんでしたか。あ、それを買ったという人も少なくないでしょう。

そのアクアは、もともと、日本の三洋電機だったことを知ってますか。三洋電機は10年ほど前、経営不振に陥り、パナソニックに買収されました。そして、パナソニックが、三洋の一部を中国企業に売却したのです。

同じように、シャープは、台湾の企業の傘下に入りました。

東芝も、一部の部門を、中国の企業に売却しました。

1980年代、90年代、日本の電機各社は、世界最強を誇っていました。松下(パナソニック)、ソニー、日立、三菱、東芝、シャープ、三洋、それに、NEC、富士通と、世界トップクラスの企業がそろい、盤石の態勢と見られていました。

最強を誇った日本の電機産業、電機企業に、いったい何が起きたのか。いま、日本の電機産業、電機企業は、どうなっているのか。日本の電機企業は、世界市場でどう位置づけられ、どう見られているのか。

なによりも、日本の電機産業は、これから、何を目指すべきなのか。

ところで、いま、「電機」と言いましたが、電機は、重電、弱電、家電、あるいは、半導体、通信機など、広い分野にわたります。このシラバスを読んでいて、「重電」と「弱電」「家電」の違いを言える人はいますか?講義では、電機の基礎知識も勉強します。

そうしたことをすべて勉強し、インターネット、ITの展開を踏まえ、日本の電機産業、電機企業の問題点、現状、課題を探り、将来を展望します。

あわせて、各企業の株価の推移も見ていきます。その前提として、株価の見方も、適宜、勉強します。

2. 授業の到達目標

いま、日本経済、世界経済は、かつてなく激しく動いています。5年前、10年前とはまるで違う動きを見せます。

電機は、その典型です。

電機の過去、現在、将来を勉強し、それを通じて、日本経済、世界経済を見るようにする――というのが、ひとつの到達点です。

3. 成績評価の方法および基準

講義形式ではありますが、できるだけ、質疑をたくさん取り入れたいと思います。

質疑だけではなく、小テストも何回か考えています。

講義の最終回には講義内試験をします。

そうしたものの総合評価で、成績を決めます。

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書、参考書は定めませんが、新聞、テレビ、あるいはネットで、日々のニュースを、しっかりウオッチしてください。

5. 準備学修の内容

産業の動向は、経済だけではなく、政治、国際、社会の動きからも、大きな影響を受けます。

そして、君たちは、その中で、生きています。

いま、日本と世界で、何が起きているのか、答えられるように、日々のニュースに関心を持ってください。

6. その他履修上の注意事項

この講義のためのノートを一冊、用意してください。

出来れば、A4サイズのノート、いわゆる大学ノートを用意してください。

小さなノートではなく、大きなノートを使いましょう。

講義の内容を、しっかりと、ノートに取ってください。

小テストをすることがありますから、その場合に備えて、講義では必ず、鉛筆(シャープペンシルでもかまいません)と消しゴムを持って来てください。

7. 授業内容

【第1回】 この回は、全体のガイダンスです。日本の電機産業、電機企業について学ぶ意味を話します。受講者の考えも聞きます。

【第2回】 日本の電機産業の現状はどうなっているのか。日本の電機産業は、強いのか、弱いのか? 世界でのポジションはどうなっているのかなどを勉強します。

【第3回】 家電、弱電、重電の違いを学びます。半導体、半導体製造、通信、精密機械についても概観します。

【第4回】 日本の電機産業は、1980年代に全盛期を迎えます。当時の日本の電機企業は、世界の市場をほぼ制覇していました。

実際には、どんな状況だったかを学びます。

【第5回】 全盛を誇った日本の電機産業は、どうして弱くなったのか。

2000年を過ぎてから、ソニーの変調が目立つようになりました。

日本の電機を牽引してきたソニーが、新製品を出すことが出来なくなり、2003年4月に発表した決算が、大幅な減益となりました。

これをソニーショックと呼びます。ソニーの凋落を調べます。

【第6回】 三洋電機の衰退、消滅。三洋電機は、堅実な電機会社として、高い評価を得ていました。

しかし、ソニーの凋落の後を追うように経営内容が悪化し、パナソニックに身売りしました。

パナソニックは、その後、三洋の家電部門を中国企業に売ってしまいました。それがアクアです。

三洋の凋落について勉強します。

【第7回】 シャープの転落。シャープは、世界でもいち早く、液晶テレビに特化し、2010年ぐらいまでは、強力な地位を築いていました。

しかし、ソニー、三洋について、経営が悪化し、やがて台湾の企業の傘下に入ってしまう。

液晶のシャープに、何が起きたのか。

- 【第8回】 東芝の危機。三洋、シャープがおかしくなっても、東芝は大丈夫だろうとだれもが思っていました。東芝は、家電から半導体、原子力まですべてを手がける巨大企業で、経営は盤石と思われていました。ところが、アメリカの原子力企業ウエスティングハウスを買収したところ、ウエスティングハウスの負債が東芝にのしかかり、東芝そのものが経営破たん、の危機に陥ります。東芝は、家電部門や、半導体、医療部門を売却し、なんとか危機を乗り越えました。しかし、半導体も医療部門も、東芝の稼ぎ頭だったのです。再生に向け、まだ先行きは不透明なままです。
- 【第9回】 NECと富士通。通信と半導体を主力とする会社が、日本には、あります。その代表選手が、NECと富士通です。1980年代、90年代には、NECも富士通も、半導体とパソコンでトップ企業となり、世界をリードしました。ところが、両者とも、半導体は、海外の会社との競争に負け、パソコン部門も最近、中国の会社の支援を仰ぎました。日本を代表する優良会社に何があったのかを調べます。
- 【第10回】 日本の電機には、大手各社だけではなく、独自の技術を持つ中堅企業がたくさんあります。日本経済は、そうした中堅企業がたくさんあるのが特色であり、強みでもあります。それは、パイオニア、沖電気、ケンウッドといったメーカー、あるいは、オンキヨー、山水、トリオ、ヤマハ、DENONなどのメーカーです。そういう中堅企業を調べます。
- 【第11回】 苦難の時期を経て、日本で、しっかり世界と戦っているメーカーは パナソニック、日立、三菱電機というところになりました。ソニーも、一時の低迷を乗り越え、復活しています。NEC、富士通も技術力で再生を図ります。日本の電機が再生するには、どうすればいいのかを考えます。
- 【第12回】 アメリカの電機産業と日本の電機産業。日本の電機産業は、戦後、アメリカの電機産業をお手本にし、アメリカから学んで、大きくなりました。そして、1970年代には、日本の電機産業はアメリカを逆転します。しかし、2000年以降、日本の電機は力を失い、アメリカに抜かれます。日米の電機を比較して考えます。
- 【第13回】 中国と韓国。東芝は中国の電機に家電部門を売却しました。シャープは台湾の企業の傘下に入りました。三洋は中国の企業に売却されました。一方、NECや富士通が半導体でおかしくなったのは、韓国企業とくにサムスンとの半導体の競争に負けたからです。中国と韓国の電機産業は、今度、どう展開するのかを考えます。
- 【第14回】 アメリカの電機産業は、衰退したように見えて、実は、新しい企業が続々と登場しています。GAFAと呼ばれるグーグル、アマゾン、フェイスブック、アップルがその代表です。それだけではなく、ウインドウズのマイクロソフト、半導体のインテルなど、GAFA以外にも 巨大企業が世界市場を握っています。日本は、シャープ、三洋電機など電機企業が相次いで衰退したあと、それに変わる企業、GAFAのような企業が出てきません。日本の電機が再生するには、そうした新しい企業が必要です。では、どうすればいいのか。今後を展望します。
- 【第15回】 最終回は、講義内で試験をします。